

課題：文学教材の語りの分析を行い、それをもとにした
単元をつくり、学習デザインを提示する。

語りの分析と学習デザイン

～「わにのおじいさんのたから物」の学習デザイン～

指導者 松本 修 先生

3班

阿部 直樹

猪口 奏子

鏡味 英修

北川 沙織

鴨井 淳一

富田憲太郎

五傳木浩樹

はじめに

発表の流れ

- 語りの分析の方法の提示
- 教材の提示（範読）
- 語りの分析演習
- 読みの交流の演習
- 語りの分析と読みの交流のまとめ

1 語りの分析のやり方(おさらい)

にじの見える橋

杉 みき子

雨がやんだ。

頭上の雲が切れて、わずかな青空がのぞく。

手さげかばんをひらたくして頭にのせ、学生服のズボンのすそをたくしあげて、小走りにいそいでいた少年は、しばらくのあいだ、雨がやんだことに気づかなかった。考えごとに心をうばわれていたのである。

黒くぬれたアスファルトの歩道を歩きながら、自分の歩みにしたがってとび散る小さなしぶきを、少年は、どうでもいいような目でながめていた。

このところ、なにもかも、うまくいっていない。このあいだのテストの成績が悪かった。母親は、課外の活動をやめろという。親しかった友だちとは、ちょっとしたことから仲たがいをした。好きなレコードを買う小づかいがたりない。

1 語りの分析のやり方(おさらい)

「語り」よりの読みをする人は、

雨がやんだ。

頭上の雲が切れて、わずかな青空がのぞく。

手さげかばんをひらたくして頭にのせ、学生服のズボンのすそをたくしあげて、小走りにいそいでいた**少年は**、しばらくのあいだ、雨がやんだことに気づかなかつた。考えごとに心をうばわれていたのである。

黒くぬれたアスファルトの歩道を歩きながら、**自分の**歩みにしたがってとび散る小さなしぶきを、**少年は**、どうでもいいような目でながめていた。

このところ、なにもかも、うまくいっていない。このあいだのテストの成績が悪かった。**母親は**、課外の活動をやめろという。**親しかった友だちとは**、ちょっとしたことから仲たがいをした。好きなレコードを買う小づかいがたりない。

1 語りの分析のやり方(おさらい)

「少年」よりの読みをする人は、

雨がやんだ。

頭上の雲が切れて、わずかな青空がのぞく。

手さげかばんをひらたくして頭にのせ、学生服のズボンのすそをたくしあげて、小走りにいそいでいた少年は、しばらくのあいだ、雨がやんだことに気づかなかった。考えごとに心をうばわれていたのである。

黒くぬれたアスファルトの歩道を歩きながら、自分の歩みにしたがってとび散る小さなしぶきを、少年は、どうでもいいような目でながめていた。

このところ、なにもかも、うまくいって**いない**。このあいだのテストの成績が悪かった。母親は、課外の活動をやめろと**いう**。親しかった友だちとは、ちょっとしたことから仲たがいをした。好きなレコードを買う小づかいがたり**ない**。

2 教材について

「わにのおじいさんのたから物」

川崎 洋

学校図書 3 年下（平成23年版）

3 語りの分析 演習

- ワークシートの「問い①」をやってみましょう。
- 根拠となる表現を抜き出し、その理由も書きましょう。
- 4～5人のグループになり、それぞれの考えを発表し、意見や疑問の交流をしましょう。

3 語りの分析 演習

◆問い①: 下線の部分の言葉はだれの声でしょうか。

わにを見るのは生まれてはじめてなので、おにの子は、そばにしゃがんで、しげしげとながめました。

そうとう年をとっていて、鼻の頭からしっぽの先まで、しわしわくちやくちやくです。人間でいえば、百三十才くらいの感じ。

わには、ぜんぜん動きません。

死んでいるのかもしれない——と、おにの子は思いました。

3 語りの分析 演習

語りの声

わにを見るのは生まれてはじめてなので、
おにの子は、そばにしゃがんで、しげしげ
とながめました**た**。

そうとう年をとっていて、鼻の頭から
しっぽの先まで、しわしわくちやくちやく**で**
す。人間でいえば、百三十才くらいの感じ。

わには、ぜんぜん動きません。

死んでいるのかもしれない——**と、おに**
の子は思いました。

3 語りの分析 演習

おにの子の声

わにを見るのは生まれてはじめてなので、おにの子は、そばにしゃがんで、しげしげと**ながめました**。

そうとう年をとっていて、鼻の頭から
しっぽの先まで、**しわしわくちゃくちゃ**で
す。人間でいえば、百三十才くらいの**感じ**。

わには、ぜんぜん動きません。

死んでいるのかもしれない——と、おにの子は思いました。

4 読みの交流 演習

- ・ワークシートの「問い②」をやってみましょう。
- ・4～5人のグループになり、それぞれの考えを発表し、意見や疑問の交流をしましょう。

4 読みの交流 演習

◆問い②:

あなたは、夕やけを見ているおにの子
に何と言ってあげたいですか。

「たから物」という言葉を使って書きま
しょう。そう思った理由も書きましょう。

4 読みの交流 演習

	たから物は、タヤケである。	たから物は、タヤケでない。
何 と 言 う か	・宝物の美しいタヤケが見つかってよかったね。たっぷり見てね。 ・世界中で一番素敵なタヤケが見られる場所が、宝物なんだね。 ・岩場までよくたどりついたね。がんばったからこそ、宝物のタヤケが見ることができたね。	・わにのおじいさんの本当の宝物は、タヤケじゃないよ。 ・本当の宝物は、足元にあるよ。
理 由	・おにの子がタヤケを宝物だと思ったのなら、それでいい。 ・がんばって自分の目でたしかめたタヤケが、宝物でいいと思うから。 ・わにのおじいさんもきっとそれでいいと思うと思う。	・本当の宝物は、どんなものなのかを知ってほしかったから。 ・わにのおじいさんが守ってきた宝物を引き継いでほしいから。

4 読みの交流 演習②

- ・ ワークシートの「問い③」をやってみましょう。

◆ 問い③：

問い①と問い②の答えの間には、
どんな関係が見られますか。
気付いたことを書きましょう。

4 読みの交流 演習②

・予想される代表的な組み合わせ

A(作中人物に寄り添った読み手)

問い①の答え: おにの子

問い②の答え: 世界中で一番素敵な夕やけが見られる場所が、
宝物なんだね。

問い②の理由: がんばって自分の目でたしかめた夕やけが、宝物で
いいと思うから。

B(語りに寄り添った読み手)

問い①の答え: 語り

問い②の答え: 本当の宝物は、夕やけじゃないよ。

問い②の理由: 本当の宝物は、どんなものなのかを知ってほしかったから。

※他のバリエーションもあるだろうが、上記の2つが多いのではないか。

※2つの答えの関係を見直すことで、自分の読みを見直すことができる。

5 語りの分析と読みの交流 まとめ

- 「読みの交流を促す条件を備えた「語り」についての〈問い〉」と「読みの交流を促す条件を備えたテキスト全体の読みにかかわる〈問い〉を組み合わせた学習デザインを考えることが課題であった。
- 今回の〈問い〉がどうであったかについて
- 今回の学習デザインについて

5 語りの分析と読みの交流 まとめ

◆「問い」の要件について

〔読みの交流を促す「問い」の要件〕 松本(2010)

- a 表層への着目: テクストの表層的特徴に着目する「問い」であること
- b 部分テキストへの着目: 部分テキストが指定されていることによって、読みのリソースの共有がなされていること
- c 一貫性方略の共有: 部分テキストが他の部分テキストや全体構造との関係の中で説明されるという解釈の一貫性方略(結束性方略)が共有されていること
- d 読みの多様性の保障: 読み手によって解釈が異なるという読みの多様性に関わっていること
- e テクストの本質への着目: 想定される作者との対話を可能にするようなテキストの勘所にかかわるものであること

松本修:「読みの交流を促す「問い」の要件」,『臨床教科教育学会誌』第10巻第1号, 臨床教科教育学会, 2010. 5. P.77

5 語りの分析と読みの交流 まとめ

・今回の「問い」を要件に照らして考えると、

問い①: 下線の部分の言葉はだれの声か。	
要 件	要件の充足
a 表層への着目	○
b 部分テキストへの着目	○
c 一貫性方略の共有	○
d 読みの多様性の保障	○
e テキストの本質への着目	△

問い②: タヤけを見ているおにの子に何と言うか。	
要 件	要件の充足
a 表層への着目	○
b 部分テキストへの着目	○
c 一貫性方略の共有	△
d 読みの多様性の保障	○
e テキストの本質への着目	○

5 語りの分析と読みの交流 まとめ

◆学習デザインについて

- (1) 本文の朗読(授業者による範読)
- (2) ワークシート問い②(1回目 直観的な答え)
- (3) ワークシート問い①(答え、根拠となる表現、理由)
- (4) 4人グループによる交流①
- (5) ワークシート問い②(2回目 交流①後の答え)
- (6) 4人グループによる交流②

【(7) ワークシート問い③】

※交流を通して、読みの多様性に気付くこと

※交流を通して、自分の読みを認識すること

おわりに

◆今回の探究課題を通して感じたこと…

- 〈問い〉の組み合わせによって読みの交流の学習活動をデザインすることが有効であること
- 〈問い〉を吟味することの重要性
(いかに今までいいかげんであったかも…)
- 授業者が、教材とじっくりと向かい合うことの重要性
- 教材を生かすも殺すも授業者しだいであること

引用・参考文献

- ・松本修「読みの交流を促す「問い」の要件」,
『臨床教科教育学会誌』第10巻第1号,
臨床教科教育学会, 2010. 5 p77
- ・松本修 『文学の読みと交流のナラトロジー』東洋館, 2006
- ・松本修「「つり橋わたれ」の学習デザインー読みの交流の
学習課題一」, 『臨床教科教育学会誌』
第11巻第1号, 臨床教科教育学会, 2011. 5
- ・『文学の力×教材の力 2』教育出版, 2001